

51、

- a 誤 造影効果が著明であり、提示された画像所見と合致しない。
- b 正 膵尾部において、明瞭かつ壁の厚い石灰化をともなった腫瘤性病変をみる。腫瘤内部の濃度は、水濃度よりやや高い。造影効果は腫瘤の辺縁に軽度認めるが、内部はほぼ造影されていない。良性病変であり、内部の濃度、壁の石灰化、造影効果が乏しいことなどから最も可能性が高い。
- c 誤
- d 誤
- e 誤

52、

- a 誤
- b 正 傍大動脈に造影効果の乏しい結節状の腫瘤性病変をみる。リンパ節腫大像と思われる。当疾患による傍大動脈リンパ節腫大と考えると、矛盾しない。MRCPにおいて、膵管に明らかな途絶、口径不整を認めず、膵管そのものは正常と思われるが、上方に圧排されている。
- c 誤 膵頭部の造影効果は正常であり、膵管も正常である。
- d 誤
- e 誤 膵腫大を認めず、画像所見と一致しない。

53、

- a 正 類円形の腫瘤性病変を腎門部に認め、ドップラーエコーにて血流をみる。
- b 誤
- c 誤
- d 誤 円形陰影は呈さない。
- e 誤

54、

- a 正 腎血管筋脂肪腫と合併する。
- b 誤
- c 誤
- d 誤
- e 誤

以上、解答 51～54 は小島博之会員（関西医科大学附属枚方病院）